

おうちで気軽にコンテナガーデン 花材選びのヒント

ホームセンターなどで手軽に手に入る花材を使って、おうちで気軽に寄せ植えなどを作ってみましょう。

1 冬の寄せ植え～クリスマス・お正月に向けて～



花材：ガーデンシクラメン（サクラソウ科）	1ポット
宿根イベリス（アブラナ科）	1ポット
オレアリア リトルスモーキー（キク科）	1ポット

花材選びのポイント：

ホワイトクリスマスをイメージし、小さな寄せ植えを作ってみました。高さと動きがある枝に小さな白い葉を持つオレアリア、小さな白い花がまとまって咲く宿根イベリス、ガーデンシクラメンの葉にも白い斑が入っています。白を基調とした寄せ植えは、一般的におしゃれな印象になりますが、日差しが弱まるこの時期には、若干寂しく感じることも。そのため、あえてシクラメンは白とせず淡いピンク色を選びました。

管理のポイント：

日当たりのよい、霜のあたらない軒下において育てましょう。

水やりは、表面の土が乾いたら、鉢の下から水が流れ出るまでしっかり与えてください。花や葉には水がかからないよう、直接土に水やりをしてください。

ガーデンシクラメンの花がらは、適宜つみとりましょう。

ビオラ（紫系）



ロータス プリムストーン

ハボタン

ビオラ（オレンジ系）

鉢の大きさ

直径 30 cm×高さ 14 cm

花材：ハボタン（アブラナ科）	2ポット
ビオラ（スミレ科）	2ポット
ロータス プリムストーン（マメ科）	1ポット

花材選びのポイント：

クリームイエローの葉をもつロータス プリムストーンに、フリル咲でアンティークっぽいオレンジ色のビオラをあわせています。全体のトーンがぼやけるのを防ぐため、ボリュームのある赤のハボタンと紫のフリル咲きビオラで色目をしめました。

ハボタン、ビオラとも冬に花材にはなくてはならないものです。近年は、ユニークな形状のハボタン、珍しい花色のビオラなども出回っており、選ぶのに迷うほどです。

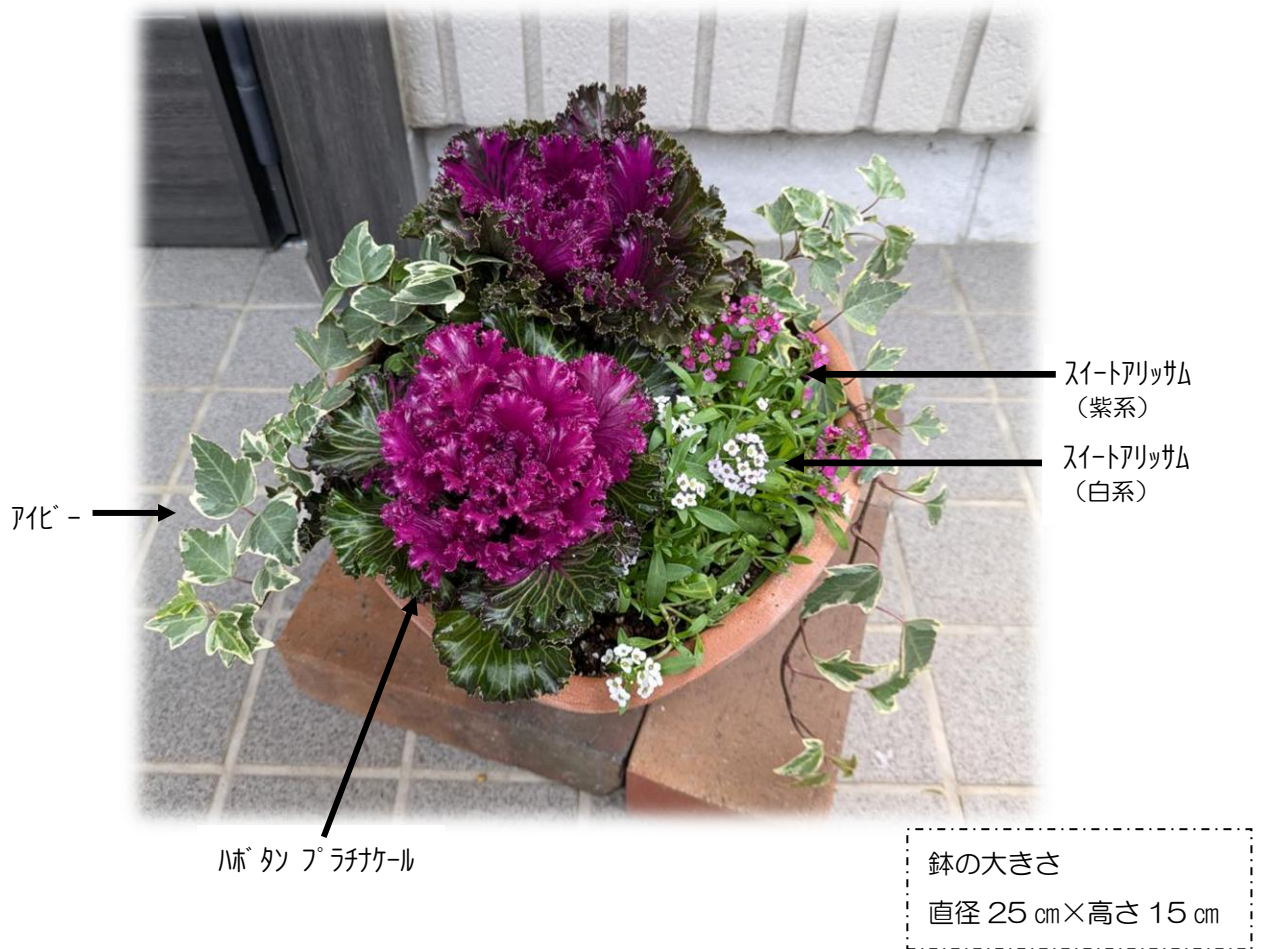
管理のポイント：

日当たりのよい霜のあたらない軒下において育てましょう。

水やりは、表面の土が乾いたら、コンテナの下から水が流れ出るまでしっかり与えます。

花や葉には水がかからないよう、直接土に水やりをしてください。

ビオラの花がらは、こまめにつみとりましょう。



花材：ハボタン プラチナケール（アブラナ科）	2ポット
スイートアリッサム（アブラナ科）	2ポット
アイビー（ウコギ科）	2ポット

花材選びのポイント：

ハボタン プラチナケールは、従来のハボタンのイメージを一新する、メタリックな光沢葉をもつ個性的な植物です。それに、寄せ植えの定番素材であるスイートアリッサムとアイビーをあわせました。

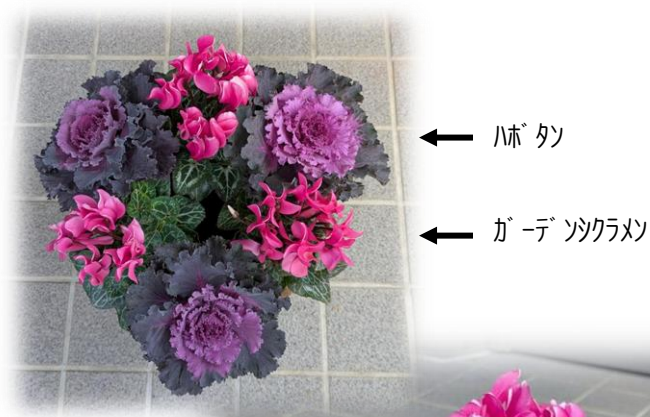
寄せ植えは、色の繰り返しを作ると、全体がまとまりやすくなります。この場合は、ハボタンとスイートアリッサムの紫色、斑入りアイビーとスイートアリッサムの白色を繰り返しています。

管理のポイント：

日当たりのよい霜のあたらない軒下において育てましょう。

水やりは、表面の土が乾いたら、コンテナの下から水が流れ出るまでしっかり与えます。

花や葉には水がかからないよう、直接土に水やりをしてください。



鉢の大きさ

直径 25 cm×高さ 15 cm

花材：ハボタン（アブラナ科） 3ポット
 ガーデンシクラメン（サクラソウ科） 3ポット

花材選びのポイント：

この時期、ホームセンターなどで豊富に出回るお手頃価格のハボタンとガーデンシクラメンを使った寄せ植えです。それぞれが上から見て三角形になるように植込みます。寄せ植えは花材合わせが難しい、花材費がかかると感じる方は、ぜひこのシンプルな組み合わせを試してください。

管理のポイント：

日当たりのよい霜のあたらない軒下において育てましょう。

水やりは、表面の土が乾いたら、コンテナの下から水が流れ出るまでしっかり与えます。

冬場でも晴天が続くと意外と乾きます。特に小型のポットは水切れに注意しましょう。花や葉には水がかからないよう、直接土に水やりをしてください。

ガーデンシクラメンの花がらは、適宜つま取りましょう。

寄せ植えあれこれ：

近年、ハボタンは様々な葉形・葉色のものが販売されています。従来の丸葉やちりめん葉に加え、切込み葉やフリンジ葉などがあり、また葉色も白、ピンク、紫だけでなく黒などの個性的なもの、葉に光沢のあるものなどがあります。草丈も低いもの、高いものもあり、どんなハボタンを選ぶかで、寄せ植えの印象は変わってきます。



花材：ハボタン（アブラナ科）	2種類	各1ポット
ピオラ（スミレ科）		3ポット
アジュガ ブラックスカロップ（シソ科）		2ポット
ウエストリングア スモーキーホワイト（シソ科）		1ポット

花材選びのポイント：

草丈のある3本仕立ての白色のハボタンと個性的な黒色のハボタンをメインに、株元には、くすみカラーのフリル咲ピオラと光沢のある黒紫色のアジュガ、白斑入りのウエストリングアを植込んでいます。どれも色や形に特徴のある植物ですが、派手な色を使わず、落ち着いたトーンでそろえることでまとまりをだしています。

冬場の管理のポイント：

日当たりのよい霜のあたらない軒下において育てましょう。

水やりは、表面の土が乾いたら、コンテナの下から水が流れ出るまでしっかり与えます。

花や葉には水がかからないよう、直接土に水やりをしてください。

ピオラの花がらは、適宜つま取りましょう。

寄せ植えあれこれ：

寄せ植えでは、葉色が美しいカラーリーフを上手く使うことがポイントです。最初にカラーリーフを選ぶと、そこから寄せ植えの全体像が浮かんでくる場合があります。



鉢の大きさ
直径 33 cm×高さ 16 cm
和風ポット

花材：ハボタン（アブラナ科）	2ポット
ビオラ（スミレ科）	2ポット
スイートアリッサム（アブラナ科）	2ポット
コロキア コトネアスター（ミズキ科）	1ポット
ヒューケラ パレスパープル（ユキノシタ科）	1ポット

花材選びのポイント：

和風ポットに、濃い赤系のビオラ、シルバーグレーの枝葉をもつコロキア、ブロンズ色のヒューケラといった暗めの色調の花材をあわせ、スイートアリッサムの白花で明るさを出しています。

冬場の管理のポイント：

日当たりのよい霜のあたらない軒下において育てましょう。

水やりは、表面の土が乾いたら、コンテナの下から水が流れ出るまでしっかり与えます。

花や葉には水がかからないよう、直接土に水やりをしてください。

ビオラの花がらは、適宜つま取りましょう。

寄せ植えあれこれ：

寄せ植えを作る場合の苗の植込み本数ですが、冬場は植物の生育が緩慢なので、葉と葉がふれあう間隔で植え込んでも、2～3ヶ月は、植え込み時の姿を保つことができます。